

# ついにIRカジノ認可された夢洲で

文・写真 加賀まゆみ(夢洲生きもの調査グループ)



写真-1 今の夢洲をWTC上階から撮影した。湿地はほぼ埋め立てられた。2023年4月22日



写真-2 築堤にはコンクリートのカバー工事が施工されている。2023年4月22日

関西万博開催まで2年を切った。在阪テレビは夢あふれるキラキラ映像を盛んに流しているが、主要施設の入札不成立は続き(4月中旬現在)、関西圏以外は無関心な様子だ。だが、土地改良工事は着々と進み、会場周辺を覗きに行くたび、中の風景が激変していることに驚く。

私たちグループは、昨年9月を最後に夢洲の入場調査が不可能になつたが、なにか手立てはないかと模索を続けている。昨年度、NHK「ダーウィンが来た」が夢洲の沖合の新埋め立て地でコアジサシの繁殖を確認した。今年もコアジサシは新島のほうで繁殖するだろう。現在その確認のため新島への調査を申請している。また、夢洲現地には入れなくとも、定期的に外周道路や咲洲の高層階からの観察、時々は釣り船での海上からの観察を続けたいと考えている。

これまでの3年間、私たちは、地球環境基金助成を受けたNPO地域づくり工房から、生きもの調査部門を受託していた。助成金の年限が3年であるため、今年からは、新たに地球環境基金の助成を受けることとなったNPO法人AMネットの協力で、同じように受託を続けられることになった。(地球環境基金の助成は一団体ひとつがルールのため、他グループがすでに助成を受けている協会では、当グループには申請資格がない。) NPO法人AMネットは、夢洲での土壤や防災などに関する市民活動をしており、環境アセスなどにおいても深い知見のある団体で、私たちもこれまで以上に、SDGsや30by30といった世界の動向を的確にとらえてのロビー活動へ努力協力していけるのではないか、と期待している。

この4月10日、夢洲の万博計画

地の北側にあるIRカジノ計画地「夢洲地区特定複合観光施設設置運営事業」のほうの環境アセスに対する市長意見が出た。それに、「SDGs達成への貢献、工事中の輸送計画・緑化計画・地球環境に関する配慮等を求める」とある。引用すると、「万博で実施される革新的で持続可能な取組を参考に2030年のSDGs達成にとどまらず、その先の社会を見据えた具体的な取組内容を明らかにすること。」「植物については、生育期間の短い種もあることから、夏季における植物相の現地調査を追加で行うこと。」とある。万博のアセスに対する市長意見をよりどころに、私たちは関係各部局との対話(港湾局の「説明会」)の場を継続しているが、万博計画地と同時に、地続きのIRカジノ計画地に関しても注視していかなくてはならない。

たしかに、IRカジノ計画地のほうは早くから土地改良工事がすすみ、私たちが夢洲に調査に入ったときにはあったのは、砂利面や草原、雨水池だけだった。だが、工事が休みのゴールデンウィーク中にはコアジサシ500羽以上が営巣行動を始めたり、雨水池では冬には5000羽のホシハジロが滞在し、秋にはミサゴ50羽が集う風景を見ている。4月、統一選挙での維新大

躍進に押されるようにして、国の認可が下りたカジノ設置であるが、この場所の自然回復のポテンシャルも絶対忘れてはならない。

そもそも、大阪湾の奥にある夢洲は、渡り鳥にとっては欠かすことのできない中継地だ。ここがIRカジノという大型観光施設となって、365日24時間光と音を発し続けることになったら、影響は計り知れない。ポン条約で2022年の世界渡り鳥デーは光害をテーマに開催と発表された。光害が渡り鳥など野生生物に与える脅威は拡大しており、光害により死亡する鳥類は年間数百万羽との報告もある。影響は渡り鳥だけでは済まないだろう。これから時代、何を大切に考えていくべきか、もっと各方面から科学的な検証をしてほしい。

今年2月、千里の万博記念公園で、夢洲に移植される樹木の大規模な移植作業が始まった。70年万博のレガシーの地で育った樹木が、次の万博の地・夢洲に移植されることは、ある種の感慨なのかコストを考えてなのかわからぬが、北摂の豊かな里山丘陵地から海風のきついゴミ埋め立て地へ移植される樹木のその後の生育は、だれが責任を持つのだろうか。

夢洲には生物多様性豊かな自然保護区が作れるはず、というポ

テンシャルを信じて、今でも私たちは活動しているが、工事が進むにつれ「現実をみよ」という声も大きくなってきた。「夢洲は当初の計画通り都市開発しないと税金が無駄になる」という世論もその一つだ。だが、夢洲は長い間大阪市民のゴミを受け止め、関西圏有数の大規模物流拠点として、その役目を十二分に果たしている。また、「偶然できた一過性の自然を人工的に維持するのは所詮不可能」という意見も耳にする。だが、テクノロジーは飛躍的に進歩している。人間は宇宙に行きたいと思ったから、宇宙に行ける技術を手に入れた。今世界でいちばん望まれているのは、地球の健康回復ではないのか。夢洲は、人間の知恵とテクノロジーを駆使して、千里万博公園の樹木の移植も含め、「未来社会の実験場」として「自然再興」を本気で進めてほしい。それこそ、「いのち輝く未来社会」がテーマの2025万博開催地・夢洲の使命にふさわしい。。



写真-3 湿地があった頃、3000羽以上のコアジサシが集合していた。(白い点は遠くまですべてコアジサシ)2021年7月11日



写真-4 万博公園の樹木移植工事写真2023年2月22日(尾方様ご提供)